
わたしも取り付けました 住宅用火災警報器

～ アンケート調査のまとめ ～

平成 17 年 3 月

財団法人 日本防火協会

I .調査の概要・まとめと考察

Ⅰ.調査の概要・まとめ

Ⅰ-1. 調査の目的と実施概要

1. 調査の目的

住宅用火災警報器（以下、「火災警報器」とする。）の使い勝手や誤作動を含め鳴った場合の状況等について、婦防クラブ員（以下、「クラブ員」とする。）自身が設置・実体験することにより、機器の扱いや設置後の留意事項に対する理解を深め、他のクラブ員や住民への啓発活動において、より説得力を持つものと期待されます。

また、設置した者を対象に、アンケート調査をおこなうことにより、今後の普及啓発活動等に資するための基礎的資料を得ることを目的とします。

2. 調査の概要

本調査の実施概要については下表のとおりとなっています。

《 調 査 概 要 》

対象	配付数	回収数	不能数	回収率	調査方法
全国から抽出した婦人防火クラブ員	142 票	141 票	1 票	100.0 %	郵送配付・回収

調査期間	平成17年1月11日～平成17年1月31日
------	-----------------------

3. 火災警報器配付個数等について

火災警報器の配付については、つぎのような方法でおこないました。

なお配付した警報器は※煙式警報器です。

- ① 各人2個（壁・天井用各1）とする。（計約300個）
- ② （財）日本防火協会において対象者の募集、選定、必要機器の買収・配付をおこないました。

※煙式警報器 → 火災等の「煙」に反応するタイプの警報器。初期出火時の煙に反応するため、早期発見に適しています。

1-2. 報告書のみかた

1. この報告書のみかた

(1) 分析結果を読む際の留意点

この調査の分析結果を読む際の留意点は以下のとおりです。

1. 間に特に指示がないかぎり、回答は1つとなっています。
2. 「調査結果の概要」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
3. 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
4. 百分比による集計では、回答者数（該当質問においては該当者数）を100%として算出し、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位を四捨五入しています。
したがって比率の合計が、必ずしも100.0%にならない場合があります。また同様にいくつかの選択肢をカテゴリーごとの構成比の小計として文中に引用する場合は、本来の構成比の数字と必ずしも合致しない場合があります。
5. 複数回答の設問では、すべての比率の合計が100%を超えることがあります。
6. 図表中の「0.0」は四捨五入の結果または回答者が皆無であることをあらわします。
7. 「付属統計表」の数値は、原則として上段が件数、下段が構成比となっています。
8. 構成比算出の母数には、原則として「不明・無回答」が含まれていますが、一部の集計では「不明・無回答」を除いているので注意が必要となります。
9. 母数が100未満の場合の百分率は、統計的誤差が大きい可能性が高いので数値の取扱いには特に注意が必要となります。
10. クロス集計の分析軸となる項目に「不明・無回答」がある場合、これを表示していません。よって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合があります。
11. 以上のほか、個々の設問に関する数値の取扱い等については、該当個所の文中または図中の注記を参照してください。

1-3. 調査結果のまとめ

本調査の結果を、アンケートの項目に沿って、つぎのとおりまとめました。
なお本調査は火災警報器使用開始後、概ね1ヶ月間の意見を集計したものです。

○ モニターの住宅等の状況（家の造り・同居家族）

- ・ 一戸建てが全体の9割を占める
- ・ 65歳以上との同居が6割

一戸建てが全体の9割を占めているので、回答には一戸建ての取り付け状況、意向が強く反映されます。また、65歳以上の高齢者との同居が6割を占めているので、住宅火災による被害の多い高齢者についての対策も考えられます。

○ 取り付けに関して（火災警報器の設置・使用方法について）

- ・ 火災警報器の設置方法、説明書は約9割が簡単と回答
- ・ 取り付けるときのおもな問題は「天井への取り付け」「部屋や住宅構造による問題」
- ・ 設置場所は半数以上がリビング、設置部分は約6割が壁
- ・ 火災警報器の取り付けは、「本人」が3割
- ・ 約8割がNSマーク入り確認

火災警報器の取り付けに関しては、ほとんどの人が理解できているようです。取り付ける際の問題点としては「天井への取り付け」「部屋や住宅構造による問題」等を挙げています。

設置場所としては半数以上がリビングを選んでおり、設置部分としては天井よりも取り付けやすい壁への取り付けを支持する意向があるようです。

取り付ける際には、「本人」が取り付けたと回答した割合は約3割となっています。また約8割の人がNSマーク入りの商品であるかを確認して取り付けをおこなっています。

○ しばらく使ってみた感想（設置による安心感・火災警報器の外観・機能・価格等への感想）

- ・ 火災警報器設置により約7割が「安心感が増した」
- ・ 火災以外での警報の原因の6割以上が調理の煙
- ・ 火災警報器の音量は約半数が「丁度良い」と感じている
- ・ 火災警報器追加意向は約3割
- ・ 約6割が火災警報器の値段に割高感を感じ、割安感を感じる人はいない

火災警報器をしばらく使ってみて、火災警報器の価格には約6割が割高感を感じていますが、火災に対する安心感が増したと考える人は、約7割を占めています。

また火災警報器の音量については、約半数以上が丁度良いと回答していますが、火災警報器の音量が小さいと回答した割合も約3割を占めています。

そのほか、火災警報器を追加したいという意向は、約3割となっています。

○ 高齢者への火災警報器普及・啓発に向けて

- ・ 火災への「安心感」を得る手段としてPRは必要な活動
- ・ 取り付け方や価格の問題は高齢者にとっては特に問題となるため自治体や地域の協力が必要（特に地域では婦人（女性）防火クラブのほか、民生委員や自治会等の協力が必要）
- ・ 火災警報器取り付け後も継続的なフォロー体制が必要

高齢者、特にひとり暮らしの高齢者への普及啓発は、今後火災警報器を地域に普及啓発していくなかで、重点となる活動です。

こうしたなかで、高齢者への火災警報器の普及啓発にあたってはつぎのようなことが必要を考えられます。

① 火災警報器による「安心感」を啓発

火災警報器を取り付けることによってどのような安心が得られるのかを地域の高齢者にも理解してもらうことが、普及啓発の第一歩となります。火災の実例や火災警報器を設置して、「助かった」「こんな時大変良かった」といった奏功事例によって、火災警報器の効果を理解してもらうためにも普及啓発は必要な活動であると考えられます。

② 高齢者の火災警報器取り付けは難しい

火災警報器の取り付けは、高いところに取り付ける場合や工具を必要とする場合には、ひとりではなかなか取り付けが困難であると考えているようです。そのため、普及啓発をはじめ取り付けに関しても婦人（女性）防火クラブ員や民生委員、自治会、消防団といった地域の協力が必要であると考えられます。またモニターとなった火災警報器の価格では高齢者が購入するには割高感があるため、自治体による補助等の支援体制づくりも求められています。

なお、参考として、回答者が考える火災警報器の価格は5,000円位に意見が集まっています。

③ 火災警報器を取り付けるだけでは終わらない

火災警報器の地域への普及啓発は、取り付けただけでは終わりません。電池の交換等の点検等についても、地域や民間業者の協力が求められます。

火災を防ぐ「あたりまえ」を地域に広げる活動へ

Ⅱ.モニターへのアンケート調査結果

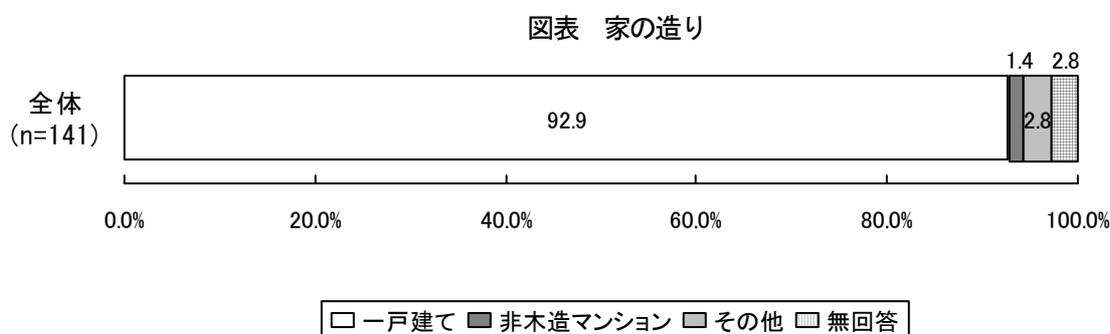
II.モニターへのアンケート調査結果

住宅用火災警報器モニター（n=141）を対象におこなったアンケート調査結果は、つぎのとおりです。

II-1. 本調査における住宅等の状況

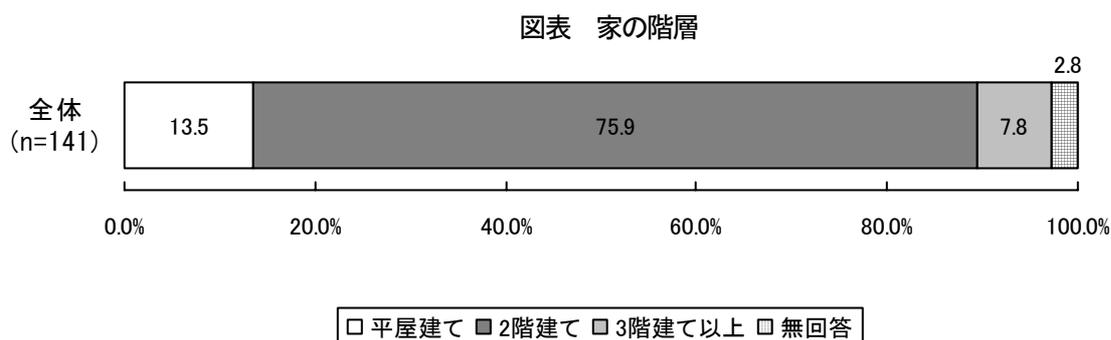
本調査においてモニターに協力いただいた方の住まいの概況はつぎのとおりです。

1. 家の造り



◎ 家の造りは「一戸建て」が92.9%、「非木造マンション」が1.4%となっています。

2. 家の階層

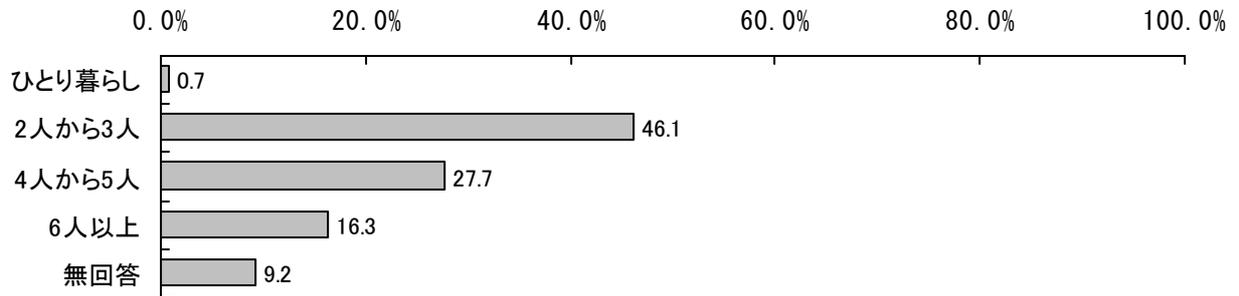


◎ 家の階層は「平屋建て」が13.5%、「2階建」が75.9%、「3階建て以上」が7.8%となっています。

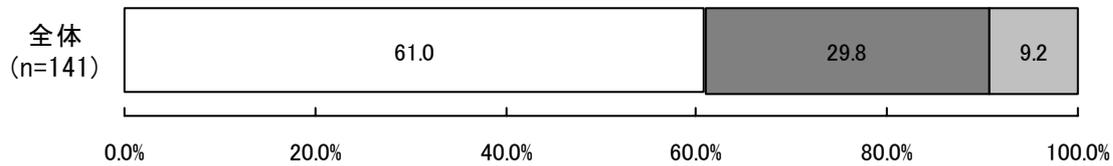
3. 同居家族

図表 同居家族

n=141

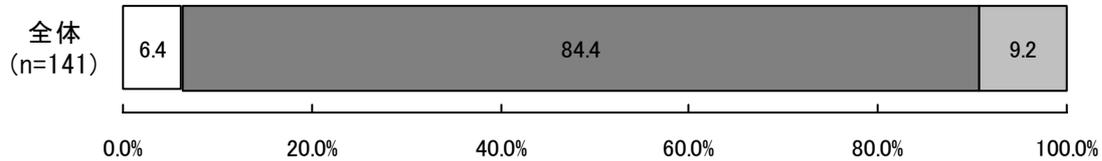


図表 同居家族 65 歳以上



□ いる ■ いない □ 無回答

図表 同居家族 満 5 歳以下



□ いる ■ いない □ 無回答

◎ 同居家族は 2 人から 3 人の家庭の割合が一番多く 46.1%、次に 4 人から 5 人の家庭 27.7% となっています。また、65 歳以上の方がいる家庭は全体の 61.0%、満 5 歳以下の方がいる家庭は 6.4% となっています。

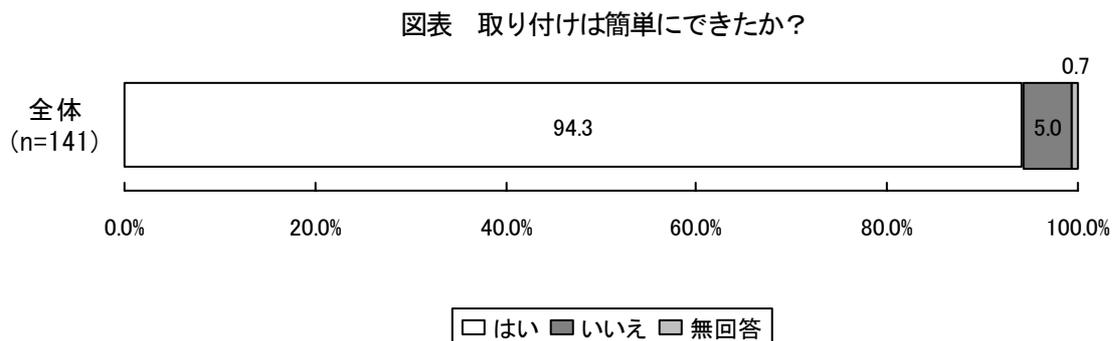
II-2. 火災警報器設置後の質問（取り付け・使用方法）

本項目では、住宅用火災警報器の取り付け、使用方法について把握します。

1. 住宅用火災警報器取り付けに関して

(1) 取り付けに関して

問 実際に取り付けてみて簡単にできましたか？



◎ 火災警報器を取り付けてみて簡単にできたと回答した人の割合は94.3%、簡単にできなかつたと回答した人の割合は5.0%となっています。

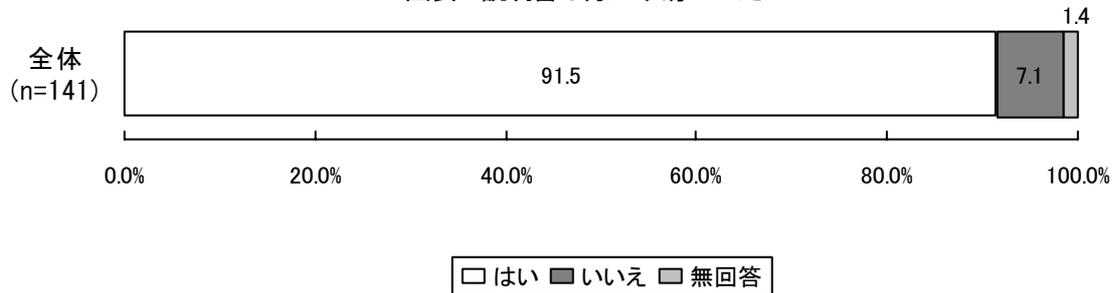
！ 取り付け上問題がある場合

図表 取り付け上のおもな問題（意見）

意見の分類	おもな内容
天井への取り付け	<ul style="list-style-type: none"> ・天井近くにドライバーで木ねじを止めるのは大変。 ・天井に取り付けにくい。 ・高いところに取り付けるため年寄りには難しいと思う。
部屋や住宅の構造上の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・壁のスペース少ない。 ・鉄筋コンクリートなので釘穴が開けにくかった。 ・寸法を計ってやらないと（くぎ打ち）うまくいかない。 ・天井、壁に警報器専用の釘を打つのに苦勞あり。ヒモ等で下げれる様にしてほしい。 ・釘の間隔がずれると入らなくなり、建物上ネジがつけにくかった。 ・キッチンのタイル又は壁には取り付けられない。 ・壁の場所は取り付けられる所と取り付けられない所がある。
火災警報器	<ul style="list-style-type: none"> ・電池を入れる時＋－が書かれていなかったで迷った。 ・ホーチキの電池のカバーが閉まらずテープでとめている。

問 説明書は分かり易かったですか？

図表 説明書は分かり易かったか？



◎ 説明書が「分かり易かった」と回答した人の割合は 91.5%、「分かりにくかった」と回答した人の割合は 7.1%となっています。

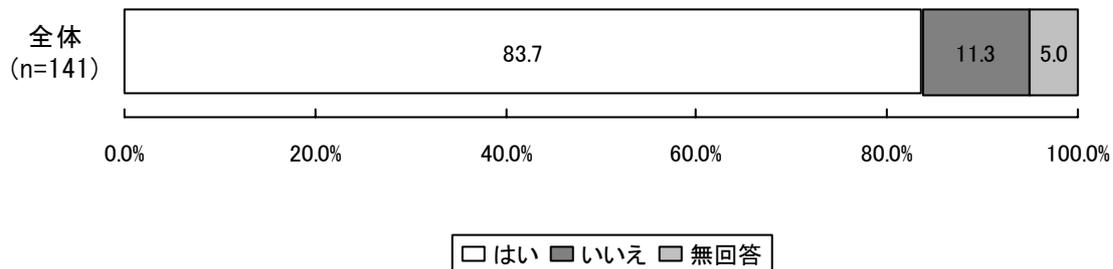
！ 説明書の分かりにくい部分

図表 説明書の分かりにくい部分（意見）

意見の分類	おもな内容
説明書の体裁	・文字がもう少し大きい方が老人には読み易い。 ・老人は難しい。
説明書の内容	・電池の包装フィルムを取らずに使用することを明記された方がよい。 ・ハイガードのコネクタ差込に難儀しました。火災警報器側のコネクタの方向等を検討していただきたい。

問 設置場所をどこにすべきか、すぐ決まりましたか？

図表 設置場所はすぐに決まったか？

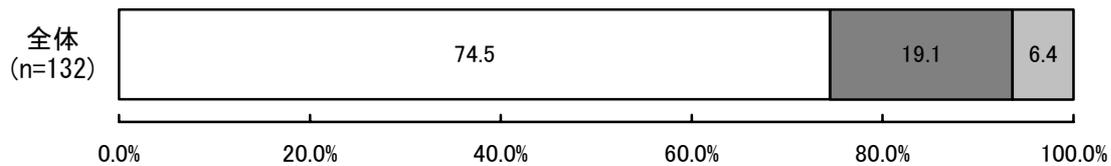


◎ 火災報知器の設置場所がすぐに決まった人は 83.7%、すぐに決まらなかった人は 11.3%となっています。

❗ (参考) 火災警報器取り付けに関する感想

火災警報器を取り付けについて、各設問（簡単に取り付けられたか、説明書が分かりやすかったか、設置場所はきめられたか）の回答結果（n=132）を分析してみると、取り付けの過程で困難なことはなかった割合は、全体の7割以上（74.5%）を占めています。一方全体の約2割（19.1%）は設置の過程で何らかの困難があったことがうかがえます。

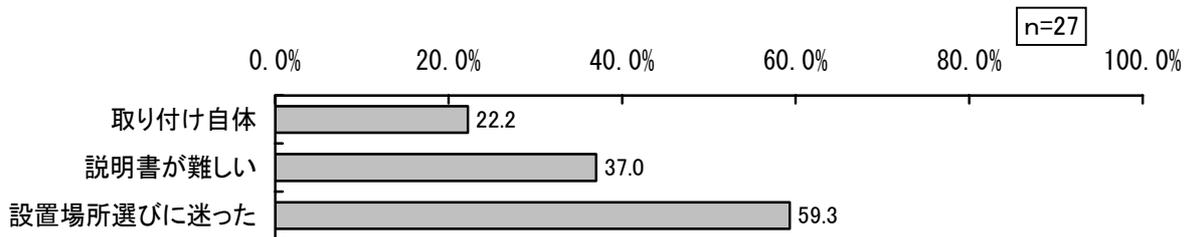
図表 取り付けの過程で困難があったか？



□ 取り付けの過程で困難なことはなかった ■ 取り付けの過程で何らかの困難があった □ 無回答

また、何らかの困難があった人（n=27）が、どの過程で困難を感じたかをみると、約6割（59.3%）が、設置場所に迷ったようです。

図表 困難を感じた理由

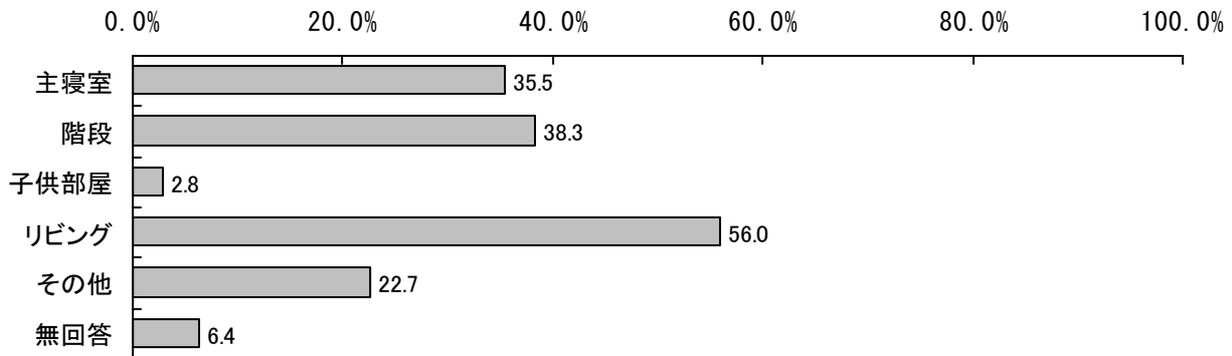


- ◎ 全体の7割以上は、特に困難もなく火災警報器を取り付けることができた様子。
- ◎ 取り付けの際、何らかの困難があった回答者のうち、約6割が取り付け場所の選定に迷ったことがうかがえます。

問 どの部屋に取り付けましたか？

図表 どの部屋にとりつけたか？

n=141



◎ 火災報知器を取り付けた部屋としてリビング (56.0%) が最も高く、次に階段 (38.3%)、主寝室 (35.5%) となっています。

！ 家庭内での状況別取り付け箇所について

図表 家庭内での状況別取り付け箇所について - 上位5項目
(同居家族 × どの部屋にとりつけたか？)

上段：件数(人) 下段：割合 (%)	1位	2位	3位	4位	5位
回答者全体 (n=141)	リビング 79 56.0	階段 54 38.3	主寝室 50 35.5	その他 32 22.7	子ども部屋 4 2.8
同居家族に 65歳以上の方が いる家庭 (n=86)	リビング 54 62.8	主寝室 31 36.0	階段 28 32.6	その他 22 25.6	子ども部屋 2 2.3
同居家族に 満5歳以下の方が いる家庭 (n=9)	階段 6 66.7	主寝室 4 44.4	リビング 3 33.3	その他 1 11.1	子ども部屋 0 0.0

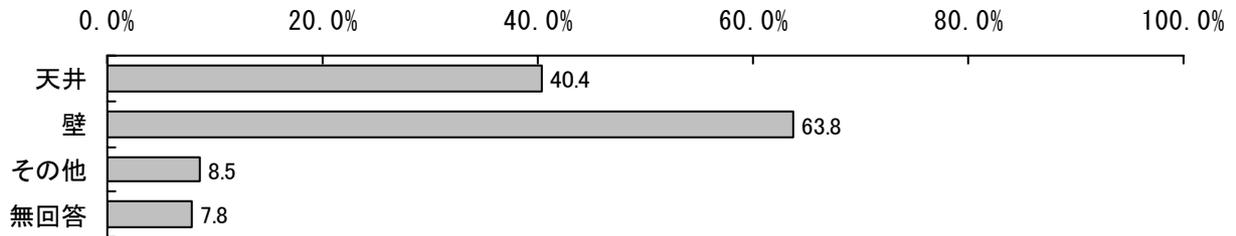
家庭内での火災警報器の取り付け箇所を同居家族の状況別にみると、同居家族に65歳以上の方がいる家庭では「リビング」「主寝室」「階段」の順に高い割合を占めています。また同居家族に満5歳以下の方がいる家庭では、「階段」「主寝室」「リビング」の順に高くなり、回答者全体、同居家族に65歳以上の方がいる家庭で最も多かった「リビング」は3位となっています。

◎ 家族構成に関わらず、「リビング」「階段」「主寝室」へ優先的に火災警報器を取り付ける傾向がみられます。ただしこの3箇所については、家族構成によって優先度が異なる様子。

問 部屋のどの部分に取り付けましたか？（複数回答）

図表 部屋のどの部分に取り付けたか？

n=141

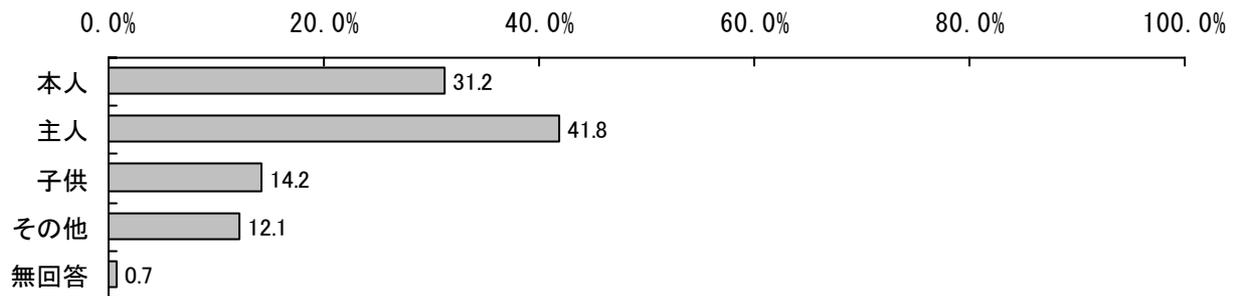


◎ 火災報知器を部屋の「天井」につけた人は 40.4%、「壁」につけた人は 63.8%となっています。

問 どなたが取り付けましたか？（複数回答）

図表 誰が取り付けたか？

n=141



◎ 取り付けした人としては、「本人」と答えた人は 31.2%、「主人」と答えた人は 41.8%、「子供」と答えた人は 14.2%となっています。

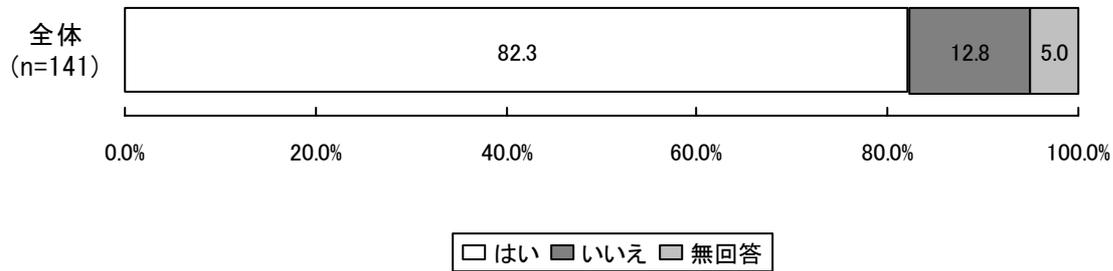
！ 取り付けに関わった方について（その他意見）

図表 火災警報器の外観デザインについて（意見）

誰が取り付けたかについて	
消防職員	母親
電気屋	大工
ガス会社	建築関係の人

問 日本消防検定協会の鑑定(NSマーク入り)を受けた商品か、確認しましたか？

図表 NS入りの商品か確認したか？

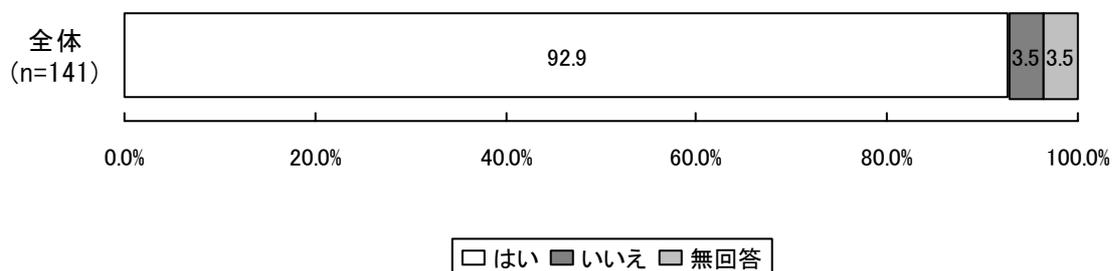


◎ 日本消防検定協会の鑑定(NSマーク入り)を受けた商品か確認した人は82.3%、確認しなかった人は12.8%となっています。

(2) 使用方法について

問 電池の入れ方は分かり易かったですか？

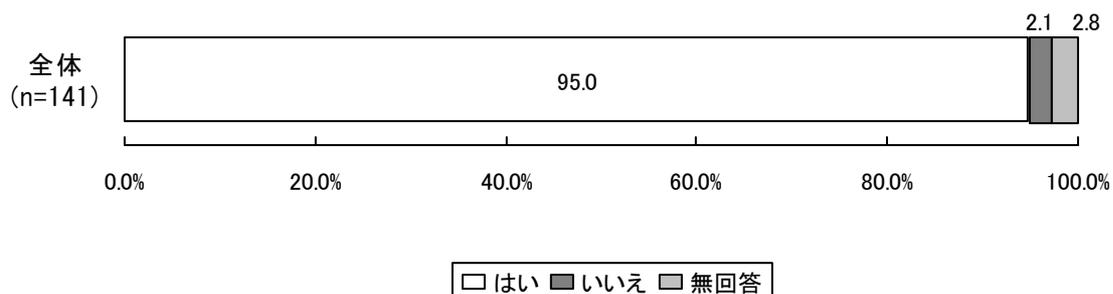
図表 電池の入れ方は分かり易かったか？



◎ 電池の入れ方が「分かり易かった」と回答した人は92.9%、「分かりにくかった」と回答した人は3.5%となっています。

問 電池を入れたあとで動作確認をしましたか？

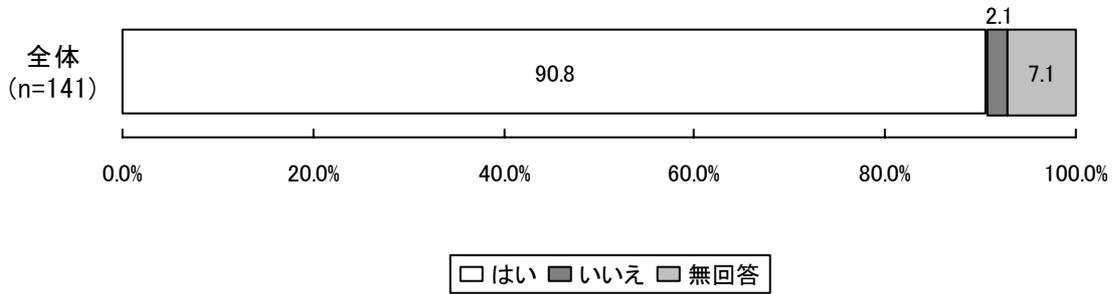
図表 電池を入れた後の動作確認



◎ 電池を入れたあとで動作確認をした人は95.0%、動作確認をしなかった人は2.1%となっています。

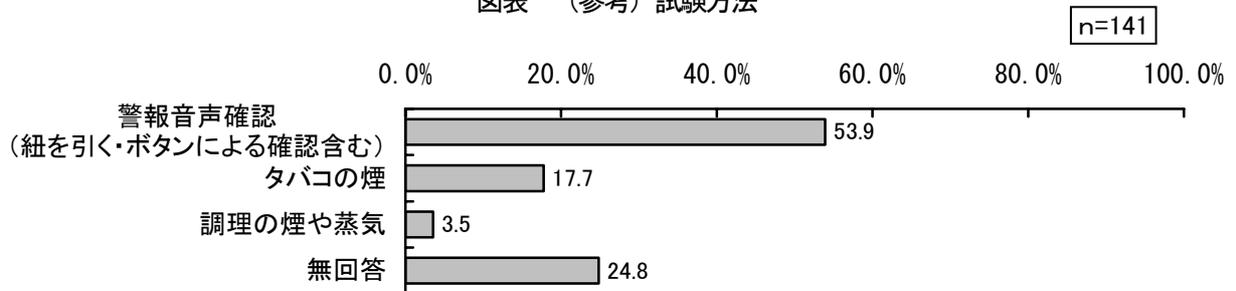
問 試験はうまくできましたか？

図表 試験はうまくできたか？



◎ 試験が「うまくできた」と回答した人は90.8%、「うまくできなかった」と回答した人は2.1%となっています。

図表 (参考) 試験方法



◎ 試験方法では、半数以上 (53.9%) が火災警報器の試験ボタンや紐を引くといった「警報音声確認」によって試験をおこなっています。

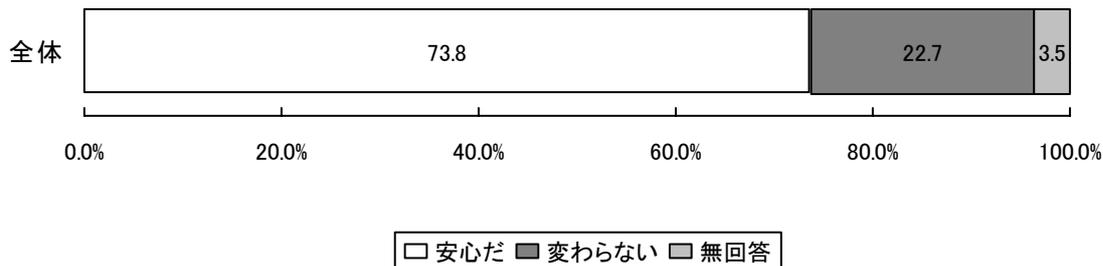
II-3. しばらく使ってみた感想・ほかについて

本項目では、住宅用火災警報器をしばらく使ってみた感想、ほかについて把握します。

1. しばらく使ってみた感想・ほかについて

問 火災に対する安心感が増しましたか？

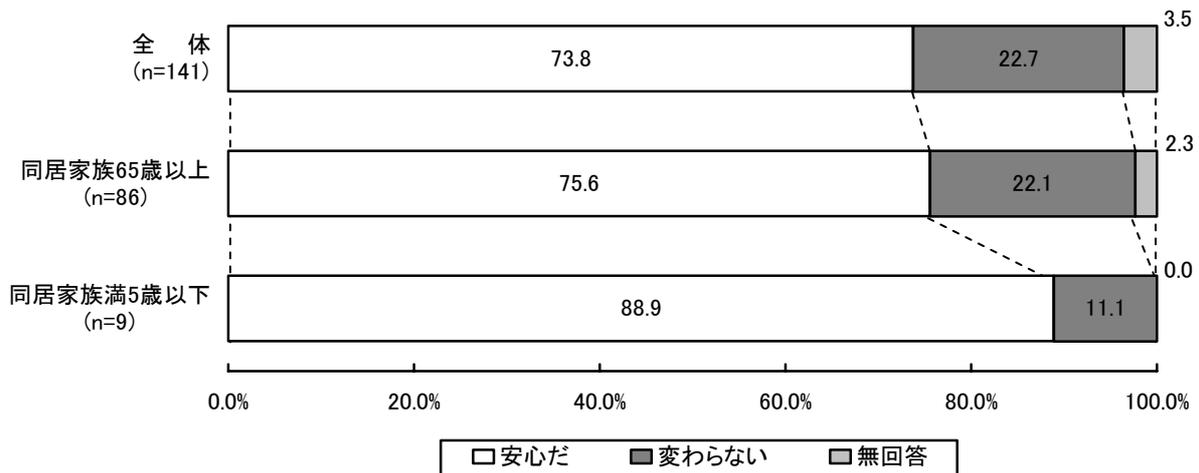
図表 火災に対する安心感が増したか？



◎ 火災報知器をしばらく使ってみて、「火災に対する安心感が増した」と回答した人は73.8%、「変わらない」と回答した人は22.7%となっています。

！ 同居家族構成による安心感への意見

図表 家庭内での火災に対する安心感について
(同居家族 × 火災に対する安心感が増したか？)



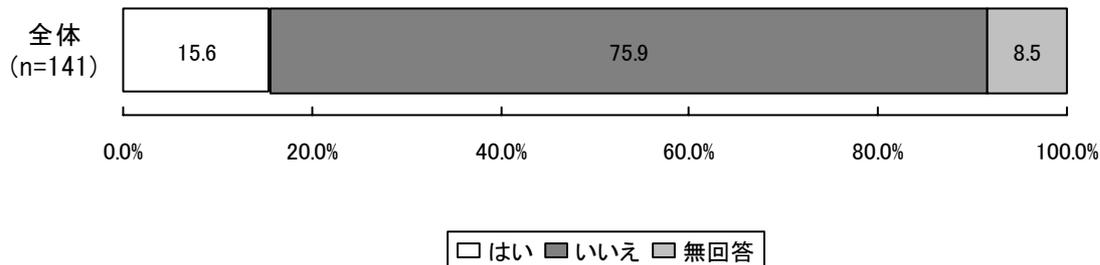
回答者全体では約7割の家庭で「火災に対する安心感が増した」と回答しています。

これを同居家族の状況、特に同居家族に65歳以上の方、満5歳以下の方のいる家庭での安心感をみると、65歳以上の方のいる家庭では大幅な変化はありませんが、満5歳以下の方のいる家庭では、「安心だ」と感じている割合が、およそ9割を占めています。

◎ 回答家庭のなかでも、特に同居家族に満5歳以下の子どもがいる家庭では、約9割(88.9%)が、火災警報器を取り付けることによって「火災に対する安心感が増した」と回答しています。

問 火災以外の原因で警報が出ることがありましたか？

図表 火災以外の原因の警報

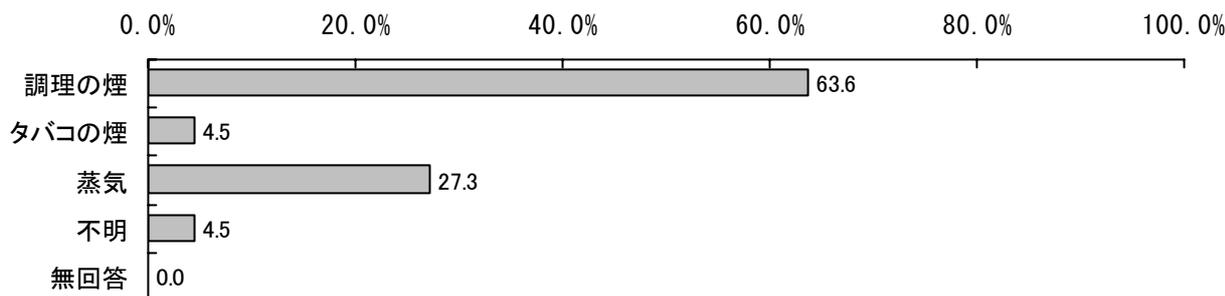


◎ 火災以外の原因で警報が出ることがあった人は 15.6%、なかった人は 75.9%となっています。

問 警報の出た原因は何でしたか？

図表 警報の出た原因

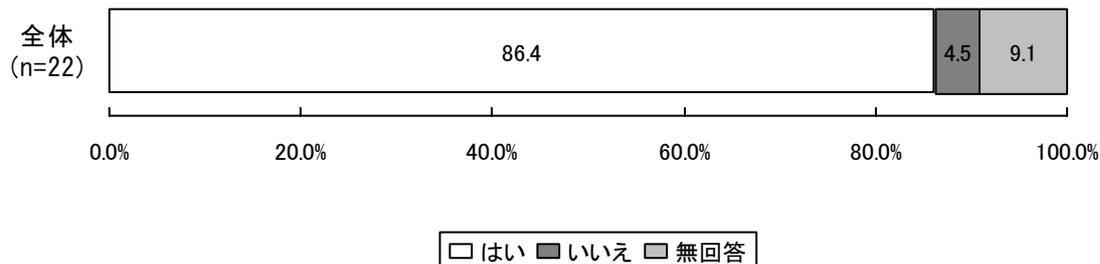
n=22



◎ 「火災以外の原因で警報が出ることがあった」と回答した人の警報の出た原因として一番多かった回答は「調理の煙」(63.6%)、次に「蒸気」(27.3%)、「タバコの煙」「不明」(4.5%)、となっています。

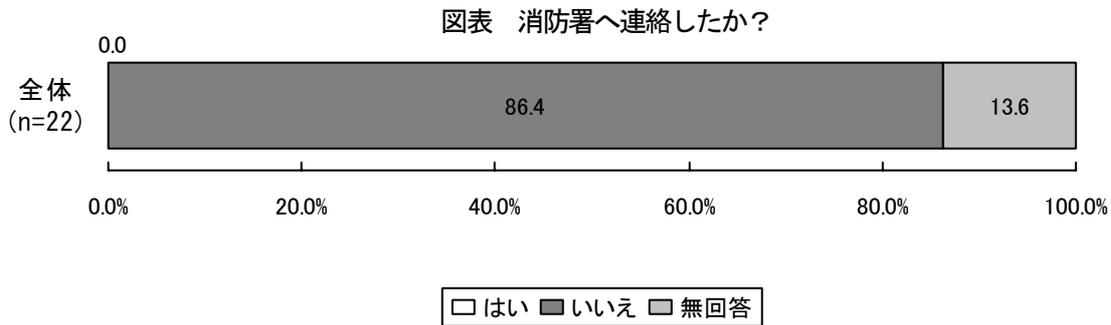
問 火災警報器の警報音とすぐに分かりましたか？

図表 警報音とすぐにわかったか？



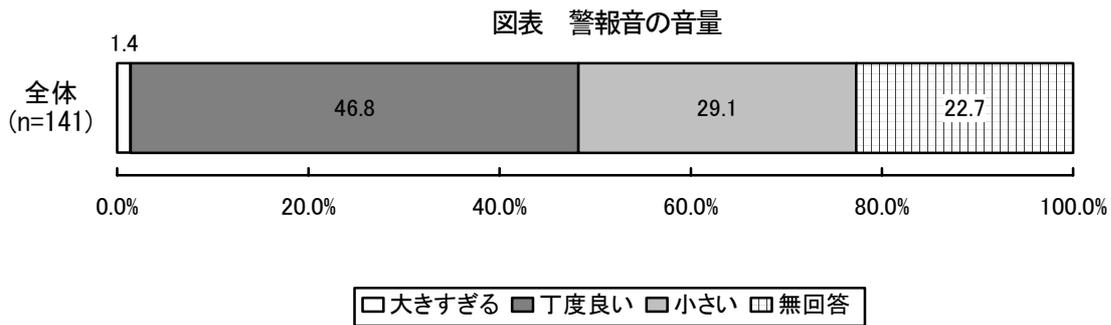
◎ 警報が出た時にすぐに警報音と分かった人は 86.4%、分からなかった人は 4.5%となっています。

問 警報が出た場合 消防署へ連絡しましたか？



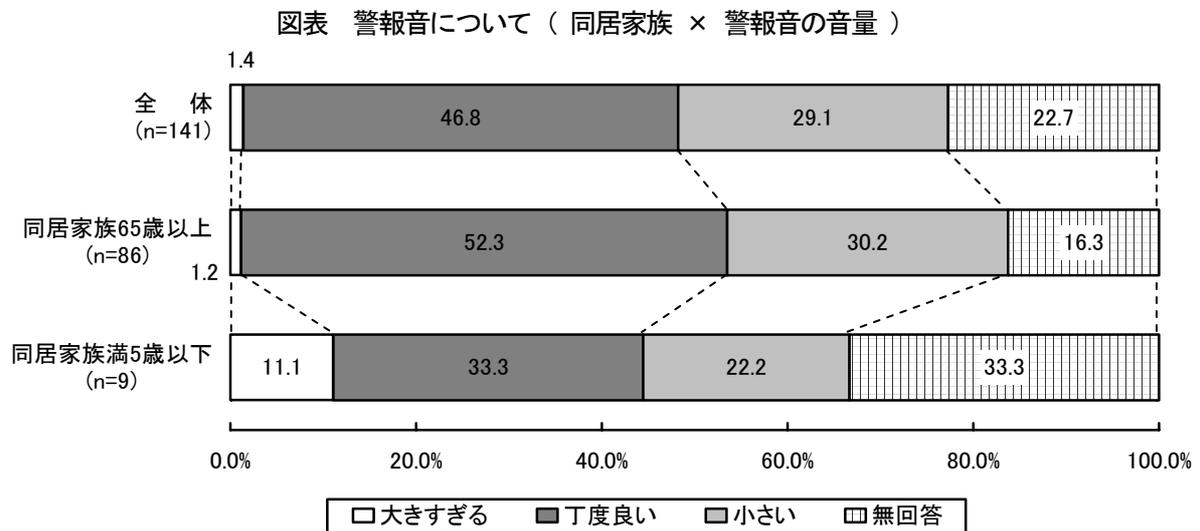
◎ 警報が出た時、消防署へ連絡しなかった人は全体の 8 割以上を占め、消防署へ連絡した人はいませんでした。

問 警報音の音量はどうですか？



◎ 警報音が「大きすぎる」と回答した人は 1.4%、「丁度良い」と回答した人は 46.8%、「小さい」と回答した人は 29.1%となっています。

！ 同居家族構成による警報音への意見



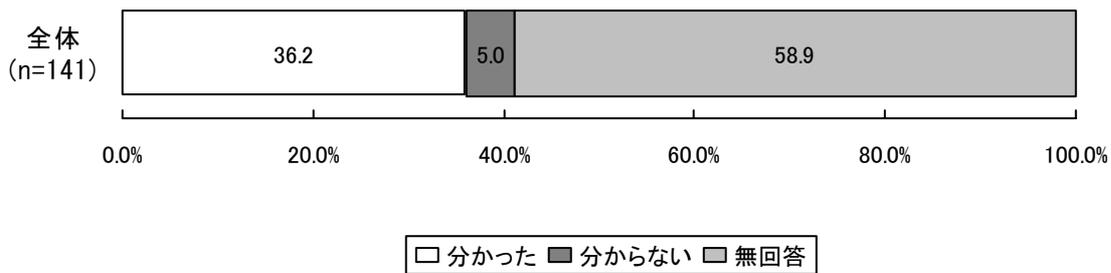
同居家族の状況別に火災警報器の警報音に対する回答をみると、65歳以上の方のいる家庭では、半数以上（52.3%）が「丁度良い」と回答しています。また火災警報器の音量が「小さい」と回答した割合も約3割（30.2%）を占めています。

一方、満5歳以下の方のいる家庭では、「丁度良い」と回答した割合は約3割（33.3%）にとどまり、「大きすぎる」と感じている割合がおよそ1割を占めています。小さな子どものいる家庭では、やや警報音が気になる音量に感じられるようです。

- ◎ 高齢者のいる家庭でも警報音については「丁度良い」と思っている割合が半数以上（52.3%）を占めていますが、約3割（30.2%）は火災警報器の音量が「小さい」と回答しています。
- ◎ 小さな子どものいる家庭では、やや警報音が気になる音量となっていることがうかがえます。

問 警報音が出た時、何が起きたか分かりましたか？

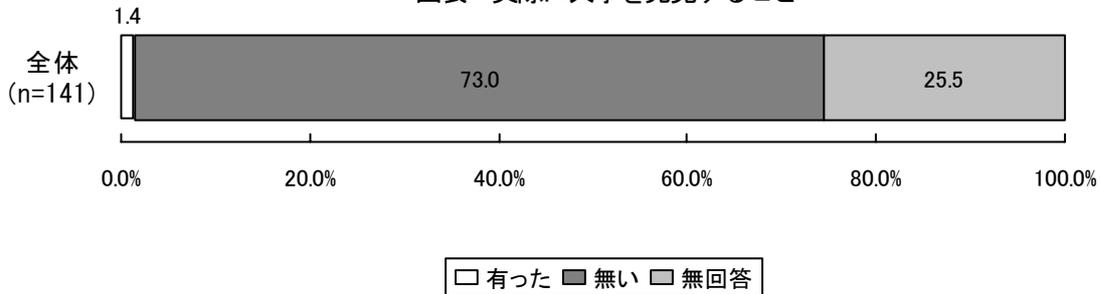
図表 警報音が出た時状況がわかったか？



- ◎ 警報音が出た時、何が起きたか分かった人は36.2%、分からなかった人は5.0%となっています。

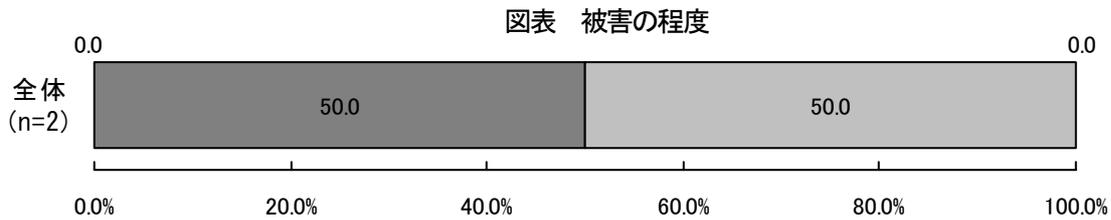
問 実際に火事を発見することはありましたか？

図表 実際に火事を発見すること



- ◎ 実際に火事を発見することがあった人は1.4%、無い人は73.0%となっています。

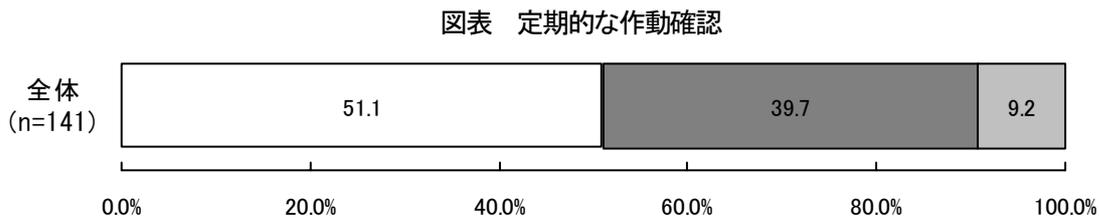
問 その時の被害の程度は？



□ 未然に防げた ■ ボヤで済んだ □ 消防を呼んだ □ 無回答

◎ 火事を発見した時の被害の程度として、ボヤで済んだ人は50%、消防を呼んだ人は50%となっています。

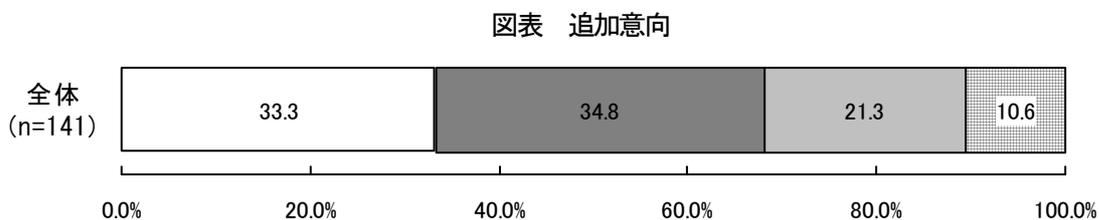
問 作動確認を定期的に行っていますか？



□ はい ■ いいえ □ 無回答

◎ 作動確認を定期的に行っている人は51.1%、していない人は39.7%となっています。

問 更に追加で別の部屋にも付けたいですか？

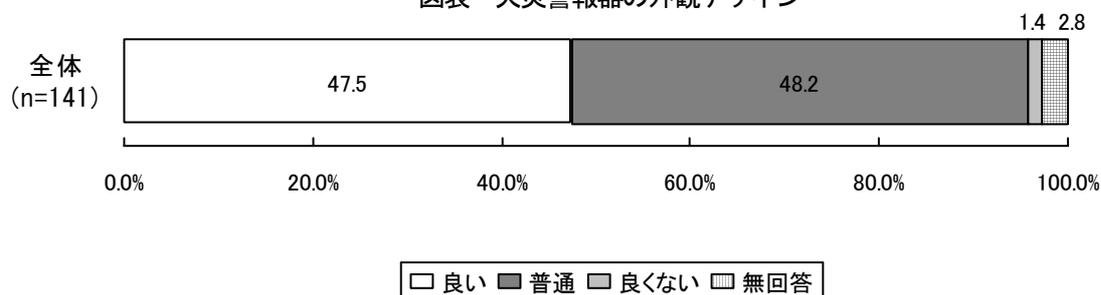


□ 付けたい ■ どちらでもない □ いらない □ 無回答

◎ 「付けたい」と回答した人は33.3%、「どちらでもない」と回答した人は34.8%、「いらない」と回答した人21.3%となっています。

問 火災警報器の外観デザインはいかがでしょう？

図表 火災警報器の外観デザイン



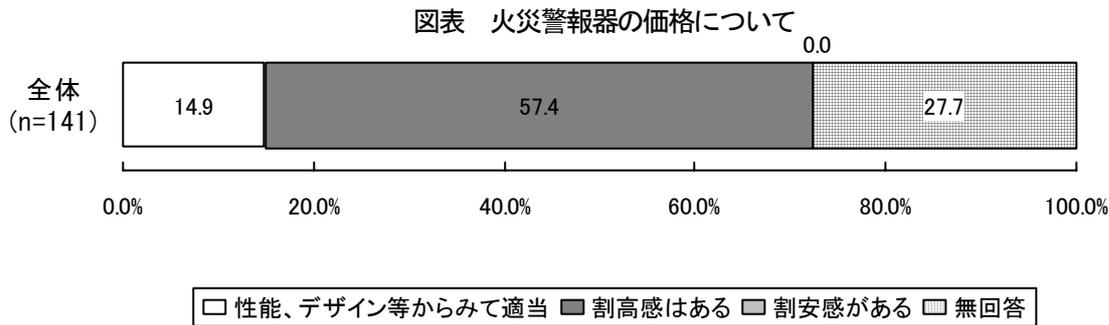
◎ 火災警報器の外観デザインが「良い」と回答した人は47.5%、「普通」と回答した人は48.2%、「良くない」と回答した人は1.4%となっています。

！ 火災警報器の外観デザインについて

図表 火災警報器の外観デザインについて（意見）

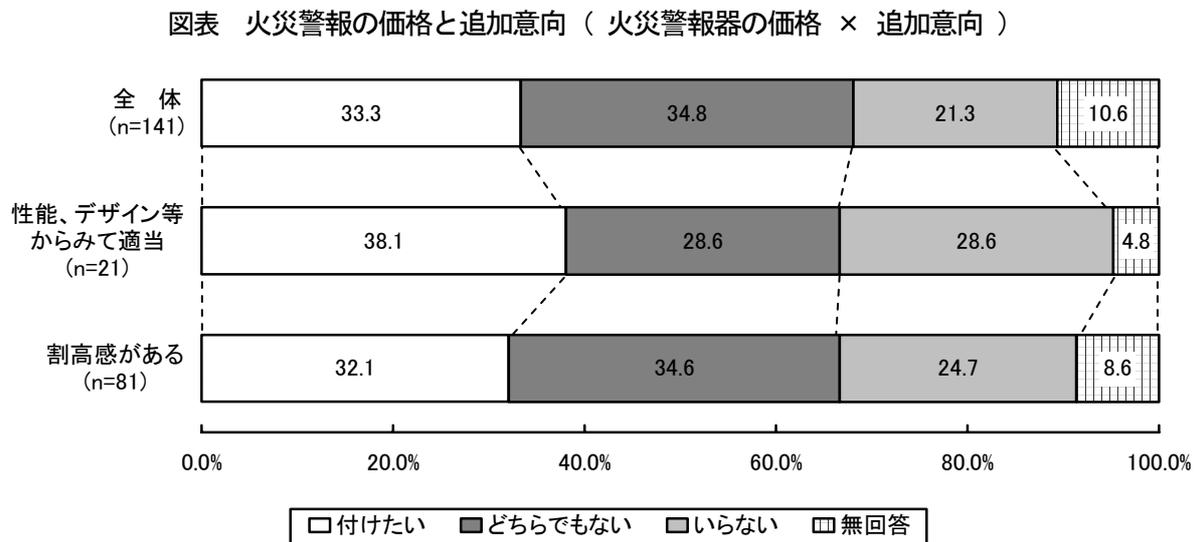
意見の分類	おもな内容
大きさについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよい大きさ。 ・スッキリしていて邪魔にならない。 ・もっと小型化すると良い。 ・色は良いが大きさがもう少し小さくならないか。
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアに合わない。機械的すぎる。 ・インテリアとしても見れるようであればもっと良いと思う。 ・和室にも違和感の無い色、デザイン。 ・部屋での違和感なく色、デザイン共にまずまずと思う。 ・色が取り付け場所により選べるように数色あれば良いと思う。 ・柱につけて丁度良いと思った。 ・壁に掛けられる様にしてほしい。 ・警報器の取り付けが目的なので外観等はいらない。

問 モニター火災警報器の値段についてご意見を(モニター製品定価は@12,500円)



◎ 「性能、デザイン等からみて適当」と回答した人は 14.9%、「割高感がある」と回答した人は 57.4%、「割安感がある」と答えた人はいませんでした。

！ 火災警報器の価格と追加意向



設問の回答結果から、火災警報器の価格については、約6割(57.4%)が「割高感がある」と回答し、追加取り付け意向は約3割(33.3%)となっています。

そこで火災警報の値段と追加意向をみると、価格について「性能、デザイン等からみて適当」と回答した人でも、追加意向では約3割(28.6%)が「どちらでもない」あるいは「いいない」と回答しています。また「割高感がある」と回答した人でも、約3割(32.1%)は「付けたい」と追加意向を示しています。

◎ 現在の火災警報器の価格については、「割高感がある」と回答した人でも約3割(32.1%)は「付けたい」と追加意向を示しています。